



## 家庭から社会へ「しっちょる？ やっちょる？」 今日からはじめる 小さなSDGs」

宇部友の会 薄井 昌子



宇部友の会は、雑誌「婦人之友」(1903年羽仁もと子創刊)の愛読者の集まりで、1932年(昭和7年)に創立、今年6月18日、90周年を迎えました。私たちは「よい家庭からよい社会を創りたい」と願い、衣・食・住・家計・環境・子どものことなど、生活全般にわたって学び合っています。

環境に関しては2003年から電気、ガス、水道、灯油、ガソリンの使用量からCO2排出量を調べ、CO2削減に取り組んでいます。「冷房の設定温度は高め、暖房は低めに」「料理に鍋帽子を使って省エネルギーを」「水道の水はサインペンの太さで」「食器の汚れはふき取ってから洗う」「冷蔵庫内を見やすく保つ」「ゴミを増やさず、リサイクルに心がける」など毎日の暮らしで気を付けたい具体的な目標を立て、実行しています。

夏の省エネでは、グリーンカーテン用にへちまの種を分け合って育て、段ボールコンポストでできた堆肥で青々と葉を茂らせ涼を満喫。秋にはへちまの実をたわしにして、台所のプラスチック製のスポンジをへちまたわしに変えるなど、声を掛け合い、実行し続けることの大切さを楽しんでいます。

その他、食品ロスを減らす、洗濯の仕方を考える、プラスチック容器を減らす工夫など我が家の暮らしが社会にどう影響するかを考えながら生活していきたいと励んでいます。

今秋、宇部友の家にて「宇部友の会創立90周年記念生活展 しっちょる？ やっちょる？ 今日からはじめる 小さなSDGs」を開催します。4日間、展示の他、調理実習やミニ講座、おもちゃ作りなど大人も子ども

も楽しめるプログラムを準備しています。私たちの活動の様子をご覧ください、SDGsを身近なところから一緒に始めませんか。

10月28日(金)~31日(月) 10:00~14:00 宇部友の家へあなたもぜひお出かけください。

詳しくは宇部友の会ホームページをご覧ください



かぶせておくと、魔法の帽子®



## レポート/食育フォーラム(8月20日)開催!

宇部市多世代ふれあいセンターの会場に36名、Zoom 26名の参加と関心高い。ゆめの森こども園(出雲市)代表の前島由美さんが「輝きを取り戻す『発達障がい』と呼ばれる子どもたち」をリモート講演。古民家での暮らし、ミネラルたっぷりの素朴な食事、動物とのふれあい、みつばち小屋など、昔ながらの自然体験を活かす療養支援に感動です。



山口で有機給食を勧める児玉純子さんのお話で、ご飯とみそ汁の朝食は少数とは驚き。司会・河村さん、知育・食育・体育が大事。この輪を拡げよう(H.M.)。



## \*\*\*\*\* イベントのお知らせ \*\*\*\*\*

### 特別サロン(1) 食育シリーズ2

- ・日時: 2022年9月17日(土) 14時~16時
- ・場所: 宇部市立図書館 2階講座室
- 講演: 山田耕三さん(宇部市教委教育支援課長 同格)  
『お弁当の日』の実践から学んだこと
- 話題提供: 浮田正夫さん(うべ環境コミュニティー)  
食品廃棄物の現状とごみ減量の課題について

☆申込: 環境学習館へ、氏名・電話・対面かオンラインの別を連絡  
☆資料代: 200円(高校生以下無料、オンライン無料)

### 特別サロン(2) 地産地消シリーズ2

- ・日時: 2022年10月15日(土) 14時~16時
- ・場所: 宇部市立図書館 2階講座室
- 講演: 安溪貴子さん(山口県立大学非常勤講師)  
地域で自給する・種子から育てる  
~アフリカで学んだ知恵を日本で生かす
- ・話題提供: 野村勝義さん(野村農園)  
有機ネット山口西部の活動について

### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

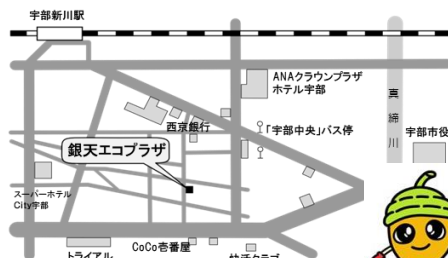
宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



## GIS（地理情報システム）を活用した防災教育

一般社団法人やまぐちGISひろば 理事 弘中淳一

GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) は、地理空間情報をコンピュータで扱うソフトウェアとして1967年にカナダで開発され、国内では1995年阪神・淡路大震災における活用がブームとなり広まってきました。

当初は図形データを扱うためのソフトウェアやデータ構築に膨大な費用が掛かることから、なかなか浸透しませんでした。近年では、比較的安価に扱える技術へと進化し、活用も進んでいます。Googleマップに代表されるGISアプリは業務利用においても、自治体の「道路」「固定資産」「上下水道」「都市計画」を始め、「電力」「通信」「ガス」等のライフライン管理、民間企業における「店舗出店計画」「顧客動向分析」等、多様な分野への適用が進んでいます。

私たちは、この技術を地域防災に生かす活動として、GISを活用した“まち歩きによる危険箇所情報収集&地区ハザードマップ作成”に取り組んでいます。2018年度から山陽小野田市の活動をきっかけに、2020年度は防府市立大道中学校における総合学習での実施、2021年度はNPO法人防災ネットワークうべと共に、宇部市厚南地区を対象とし、実施してきました。

まち歩き(図1)においては、地域の方々の過去の災害知見等を基に、小中高生がタブレットを操作し、クラウドGISへ危険箇所等を記録することにより、お年寄りから若い方へ災害を含む地域に関する知見の伝承が行えます。またこれと土砂災害ハザードマップ等を融合した地区ハザードマップをパソコンGIS上に表現することができます(図2)。

今年度より全ての高校生が履修する「地理総合」においてGISの学習が必要と、文科省の新学習指導要領

にうたわれています。私たちは身近なGISの活用による防災教育の推進を、今後も継続してゆきたいと考えています。また、高校生の探求学習でも、地域の環境調査などにGISを活用し、より分かり易い情報発信と世代の交流を期待しています。

まち歩きデータ記録(タブレットGIS) in 大道中学校



防災まち歩きにより、タブレットGISに、地域危険箇所等の写真、コメント、位置情報を記録

図1 防災まち歩き

地区ハザードマップ印刷(パソコンGIS) in 大道中学校



まち歩きで記録した写真、コメントを確認し、修正『地区ハザードマップ』が完成⇒『印刷出力』

図2 地区ハザードマップ作成(GIS活用)

うべ環境コミュニティー会員 コラム

### 家庭菜園でのスイカ作り 福永 公寿

我が家の10m<sup>2</sup> ばかりの家庭菜園ではもう十数年来スイカだけを作っている。例年郷里の姉夫婦から毎年7月に送ってもらっていた大栄スイカの食後の種子をすぐ播いて9月頃の収穫を行っていたが、数年前から姉夫婦の高齢化のための廃農業によるスイカ栽培停止に伴い、代々植え継ぎ、食べ継いで保存してきた種子を5月頃に播いて育てている。

市販のスイカ種子の説明書にはスイカの特徴として「手間がかかり天候にも左右されやすいので、家庭菜園の作物としては難しい部類に入るが、それだけに収穫の喜びは格別です」とある。今までの経験では、種子一粒から確実に苗が一つ出来るので一年に種子20粒ほどあれば十分で、収穫が終わったら畑に野菜や果物屑等の生ごみを埋めて堆肥化しておきミミズを育てている。そして畑の周囲には良い乳酸菌のいるヨモギを配している。その他に肥料として使用するのは鶏糞と牛糞のリンを多く含む肥料で3月の安価な時期に購入することになっている。発芽してからは葉とつるに酢の希釈液をスプレーすると害虫防止にも良いらしいが、今年は竹酢液が切れたため全く行わなかった。米

糠はマル虫をスイカ苗から遠ざけるため周囲20cmに播くと良い。

問題は開花後の結実で、開花が梅雨の期間だと結実が難しいが、今年は運良く天候に恵まれ結実は順調であった。花粉の交配を近所の人を手で行ってられるようだが、私は全く自然任せにしている、小さな蝶や蜂たちが飛び回っている所以他们が行ってくれている。実の間引きも自然の成り行きに任せていて、大体一つのつるに一つ実が大きくなると他の実は落ちて行くようだ。

そして黒ビニールシート栽培が苦手な私は苗のつるが伸びたら、近くの休耕田のカヤを刈り取り、適当な長さに切って下に敷いて、雨や水遣りの時の下葉への土の跳ね上がり防止している。これはスイカの実の下敷きにも適している。お盆が過ぎた今、葉が茂っている時はスイカの実が全く上からは見えなかったが、葉が透いてくると大きくなった実があちこちに顔をだして来た。収穫して東京の孫娘に送るのが今や毎年の楽しみになっている。

